

若い女性のやせ対策—日本栄養士会の取り組み—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 迫, 和子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3306

若い女性のやせ対策—日本栄養士会の取り組み—

○迫和子¹⁾、

公益社団法人日本栄養士会 専務理事

【現状】近年、20 歳代及び 30 歳代の女性のやせすぎと高齢者の低栄養問題は大きな課題となっている。その中で、20 歳代女性の摂取エネルギーは低く、ここ数年間のデータで見ても 70 歳代女性とほぼ変わらない状況が続いており、親となる世代だけでなく子供たち、さらにはその子供たちへの影響を考えれば、早急な改善が必要である。

【目的】若い女性に対してやせすぎが問題であるという意識を定着させること、さらにやせ志向を助長している社会環境に対する対策を推進していくことは社会全体の責任として重要である。

そこで、日本栄養士会は第 1 回栄養の日（8 月 4 日）の事業として国民向けのメッセージを作成するとともに普及活動を行うこととし、さらに今後 5 年間の主要課題として取り組むこととした。

【方法及び結果】（1）KNK プロジェクト（国立健康・栄養研究所・日本栄養士会・神奈川県立保健福祉大学の合同プロジェクト）で若い女性のやせ問題と次世代への栄養を議論し、国民向けメッセージを作成した。

（2）8 4（栄養）PR イベント（8 月 2 日）でメッセージを発表した。

（3）第 1 回栄養の日記念式典（8 月 7 日）において「新たな栄養習慣—過栄養対策からのギアチェンジャー（仮）—」と題して鼎談並びに福岡秀興早稲田大学理工学術院理工学研究所研究院教授による講演を行った。

（4）日本栄養士会ホームページ（管理栄養士・栄養士向け）と NU+（ニュータス）（国民向け）の Web サイト特設ページにおいてメッセージおよび活動状況を公開した。

【結語】人生 90 年時代を迎え、人は一生の間に約 9 万回の食事をして生きていく。その 1 回 1 回の食事の積み重ねが自分自身の、さらに自分の子供たちの身体を作り、生涯を通じて健康で生き生きと生きることに直結していることを忘れてはならない。

日本栄養士会は、食卓に笑顔があふれ、健全な心身をはぐくみ、ひとり一人が自己実現を叶える、元気な未来の日本をつくるため、栄養の日・栄養週間を通じて国民運動を展開していく。